

令和2年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	基盤教育群
学群(学部)長名	平岡善浩

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	来年度新カリキュラムに移行するにあたり、授業評価アンケート結果や授業改善計画の反映について検討が必要。
	理由	新カリキュラムにおいては、来年度から継続開講科目や読替科目が始まり、新カリキュラムの体系の中で新たにシラバス設計や科目運営がなされることから、今回の結果をどのように反映させるか具体的な検討が必要。
②	課題	R2 年度前期のオンライン講義を経験した上での対面授業再開であったため、様々な「ハイブリッド授業」の試行が行われており、その実践方法や効果、課題について情報共有する。
	理由	語学やアクティブラーニング、実技、大人数講義など、講義スタイルや教育内容に対応して、様々なオンラインツールが対面授業と並行して活用されており、各教員の振り返りの機会や教育群としての共有の機会設定が望まれる。
③	課題	一部の同一科目複数クラスの科目で、授業内容の相違や課題の多寡があり、授業進行にも一部バラツキがあった。
	理由	シラバス通りの内容、教材が使用されていなかったり、履修生の理解度に応じて進行を調整したりしていた。教員裁量は問題ではなく、積極的な面が評価できるが、学生や教員間で「不公平」と誤解される懸念がある。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	R4 年度新カリキュラムにおける継続開講科目および読替科目について、今回のアンケート結果および改善計画の結果を踏まえながら、新カリ WG や教務 WG を中心に、R2 年度前後期の授業評価アンケート結果や授業改善計画を確認し、科目運営、クラス編成、シラバス作成などに反映させていく。また、開講保障科目については、選択/必修の別や、最小受講人数の制限などにより開講すべき科目の精査を行い、教育の質の担保や教員負担が過重にならない配慮を行う。
	「ハイブリッド授業」については、語学やアクティブラーニング、座学や実技など「講義スタイル」に応じたオンライン活用例や講義時間内レスポンス、事前事後学習促進など「利用目的」に応じた活用例がある。全科目の網羅的な「ハイブリッド授業方法」の共有ではなく、「講義スタイル」や「利用目的」などの枠組みの設定に基づき、いくつかの実践例をピックアップして簡単な報告をいただき、マトリクス化して共有資料とするなど検討したい。
③	同一科目複数クラスの科目については、クラス担当者間の情報共有や連絡を密にして授業運営しているが、改めて、シラバスに記載された内容および教材の確認をした上で、教員裁量による教材、課題の設定、履修生の理解度に応じた進行の調整について、相互確認をされたい。クラス担当が、学生の理解度に応じて課題を課したり、進行を調整したりすることは、必要な判断なので、それが教員や学生に「不公平」に誤解されないような情報共有や説明が必要。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

R2 年度前期のオンライン講義を経験してからの、対面授業再開であったため、「ハイブリッド授業」の試行や成果がみられた。対面授業であっても PC やスマートフォンを併用し、①講義時間内のクイックレスポンス (チャットや投票機能) ②事前事後学習時間を見越した課題出題 (ポータル, weclass, Teams 等) ③事前事後学習のための動画、教材、参考資料の共有など、それぞれの取り組みがみられた。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

「ハイブリッド授業」については、8月4日に予定されている全学FDにおいて、基盤教育群も含めた全学的な取り組みを共有し議論される。基盤教育群としては、語学、アクティブラーニング、大人数講義、実技系科目など、教育方法毎にハイブリッド授業の試行や成果についてご報告いただくような機会を検討したい。

令和2年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	看護学群
学群(学部)長名	高橋 和子

<p>1-①. 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。</p>					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課 題</td> <td>科目運営について、履修者が100名を超える科目では、グループワークやグループワーク後のプレゼンテーション、スキルに関わる個別指導が難しく、効果的な授業展開ができていない科目がある。感染予防対策からも技術演習等を行う科目は、100名を超える人数での実施は困難な状況である。</td> </tr> <tr> <td>理 由</td> <td>コロナ禍のため、感染予防対策を行いながらの授業展開が求められるが、100名を超える人数で、グループワークやスキル修得の演習を行える施設が限られている。</td> </tr> </table>	課 題	科目運営について、履修者が100名を超える科目では、グループワークやグループワーク後のプレゼンテーション、スキルに関わる個別指導が難しく、効果的な授業展開ができていない科目がある。感染予防対策からも技術演習等を行う科目は、100名を超える人数での実施は困難な状況である。	理 由	コロナ禍のため、感染予防対策を行いながらの授業展開が求められるが、100名を超える人数で、グループワークやスキル修得の演習を行える施設が限られている。
課 題	科目運営について、履修者が100名を超える科目では、グループワークやグループワーク後のプレゼンテーション、スキルに関わる個別指導が難しく、効果的な授業展開ができていない科目がある。感染予防対策からも技術演習等を行う科目は、100名を超える人数での実施は困難な状況である。				
理 由	コロナ禍のため、感染予防対策を行いながらの授業展開が求められるが、100名を超える人数で、グループワークやスキル修得の演習を行える施設が限られている。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課 題</td> <td>「継続」 事前・事後学修について、課題提示により自己学習を促すなど工夫をしている科目もあるが、全体的には授業時間以外の学修時間が不足している科目が多い。</td> </tr> <tr> <td>理 由</td> <td>教員側は、事前・事後学修を促す課題の提示や工夫をしているものの、教員が期待した成果に至っていない。</td> </tr> </table>	課 題	「継続」 事前・事後学修について、課題提示により自己学習を促すなど工夫をしている科目もあるが、全体的には授業時間以外の学修時間が不足している科目が多い。	理 由	教員側は、事前・事後学修を促す課題の提示や工夫をしているものの、教員が期待した成果に至っていない。
課 題	「継続」 事前・事後学修について、課題提示により自己学習を促すなど工夫をしている科目もあるが、全体的には授業時間以外の学修時間が不足している科目が多い。				
理 由	教員側は、事前・事後学修を促す課題の提示や工夫をしているものの、教員が期待した成果に至っていない。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課 題</td> <td>「継続」 学生の捉えている到達目標に対する到達度と、教員側が捉えている評価にずれがあり、評価基準の明確化を図り、ルーブリックによる評価方法を確立する必要がある。</td> </tr> <tr> <td>理 由</td> <td>ルーブリックによる評価を確立することで、科目による教員・学生間の目標到達度の認識のずれ等、解消することが必要である。</td> </tr> </table>	課 題	「継続」 学生の捉えている到達目標に対する到達度と、教員側が捉えている評価にずれがあり、評価基準の明確化を図り、ルーブリックによる評価方法を確立する必要がある。	理 由	ルーブリックによる評価を確立することで、科目による教員・学生間の目標到達度の認識のずれ等、解消することが必要である。
課 題	「継続」 学生の捉えている到達目標に対する到達度と、教員側が捉えている評価にずれがあり、評価基準の明確化を図り、ルーブリックによる評価方法を確立する必要がある。				
理 由	ルーブリックによる評価を確立することで、科目による教員・学生間の目標到達度の認識のずれ等、解消することが必要である。				
<p>1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</p>					
①	<ul style="list-style-type: none"> ・講義室を分け、クラスサイズを小さくして運用するなど学生数や授業内容にあった講義室の使用を考慮するとともに、期待する学修効果が想定される学修システム等の活用を更に検討する。また、令和4年度から、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の変更により、新カリキュラムによる教育が開始される。演習スペースの拡大等、学修効果の向上が期待できる学修環境を検討する。 				
②	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学修については、引き続き、必要な学修内容を具的に示したり、授業内容に即した課題提示を行ったりして、学修を促す工夫を継続する。また、促しのみならず、主体的な学修の習慣が身に付くよう、繰り返しの学修に適した教材や学習環境を検討する。加えて、FD等を通して、事前・事後学修の時間が確保できている科目における工夫等を共有し、効果的な方策を検討する。 				
③	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、全学年の科目でルーブリックを活用し、到達目標に対する評価の公平性と妥当性を確認する。また、評価基準の明確化を図ることで、ルーブリックの精度を上げる。 				

<p>2-①. 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・Teams を用いて課題が提示されており、講義終了時にメンションされる課題が学習内容の学修と理解の定着に役立っていた。 ・人の一生としての一連の成長発達過程やそれらに影響を及ぼす要因等について、実感をもって理解する機会となるように高齢者との交流会が位置づけていた。 	
<p>2-②. 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・教授会・教員会議や他の学群の会議等で紹介し、情報を共有する。 ・看護学群のFD等を通して、学生の学修意欲の向上につながる支援方法を検討し、学修支援システム等の活用による新たな学修方法を展開につなげる。また、学修環境の整備を図ることで、シミュレーション教育の強化による実践能力の向上を図る。 	

令和2年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	事業構想学群
学群(学部)長名	中田千彦

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	リモートでの授業実施により、コロナ禍以前の対面(通学)のみの授業実施体制時よりも受講生が増加した選択科目があった
	理由	学生にとって通学が負担になる場面もあり、リモートでの授業が実施されたことにより学生の受講機会の拡充につながり、選択科目としての特質が活かされた。
②	課題	建築士試験受験資格(一級)の再取得が実現し、在校生の一部にも遡って受験資格を得られる単位取得の仕組みが始まったが、対象とならなかった在学学生、卒業生が生じたことへの教育的な対応が課題となった。
	理由	現行カリキュラムに移行した際に、建築士試験(二級)からの受験資格に履修単位、科目構成を変更したため、上記の事態が生じたが、法改正に伴い受験資格が大幅に広げられたことへの本学の対応として再取得を実施している。
③	課題	リモートと対面の組み合わせによる演習科目の運用が行われ、在宅での学びと通学による大学の学習環境での学びのそれぞれの優位性を活かし授業運営を行うことに関する技術的な課題が顕在化した。
	理由	図書館やコモンズなどを活用した大学における学習環境の改善を進めていく中で、登校をして学ぶことの意義を再確認しつつ、大学での学び全体に対しての新しい取り組みの必要性が注目されるようになった。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	①	漫然と登校を義務付けることを含む教育機会の提供が当然であるというこれまでの認識に対し、多様な学習環境を用意することで、学生自身の学びへの主体性の変化を垣間見る機会となった。教室以外の学習環境における科目の履修が技術的、制度的に大きく進展していく中で、遠隔システムを上手に活用し、その利点を用いて学習効果の向上を試行錯誤することが可能な状況が到来したことで、大学での教育や研究の展開に大きな可能性を見出すことができ、それらを有効に利用することへの高い関心と実行力を備えることで、新時代の教育の可能性を引き寄せることができると考えられる。
	②	建築士法とそれに関連する制度が大きく改正されたことにより、建築士人口の著しい減少に歯止めをかけようとする中、本学は建築士資格取得を希望する卒業生に対して、結果的にその門戸を狭めてしまう制度を取り入れてしまった。他方、社会的にはその逆の流れが志向されている現状において、建築士試験受験資格の獲得に関する確認申請を新たに行い、卒業生の機会の拡充に努めた。今回の改正による機会の拡大から漏れてしまった卒業生、学生に対しては、その状況が不利にならないよう、在学中の指導、卒業後の進路指導も含め丁寧に行っていく必要がある。
	③	コロナ禍で学習環境の新しい仕組みづくりに取り組みつつ、新規に獲得した情報技術を活用した教育の展開には大いに期待できる要素があることも実感した。これまでの教育手法に加え、学生や教員の時間的、空間的な制約を解き、学びの可能性を広げる様々な手法を得たことは、これからの教育の展開にとって大変意義深い。他方、その技術を活用しつつ、これまでの教育手法をさらに改善して取り組むべき進め方の存在も重要視されるようになったことから、多様な教育の場面の展開に意欲的に取り組むことの重要性も高まってきたと言える。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

災害の科学(土) : 昨年度より受講生が増加した。遠隔講義であったため、野外での土壌調査などは実施せず、動画を撮影して紹介した。遠隔講義においても理解度が増すよう講義資料の改善を図った。また、課題レポートは到達度に達するまで受講生とメールでやりとりした。意欲的に取り組んでくれた受講生が多かった。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

遠隔授業のシステム活用のメリットを熟知しつつ、対面での実習や演習における教育効果を再認識しながら、両者の組み合わせによる魅力的な科目運営に取り組んでいく。

令和2年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群
学群(学部)長名	西川正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：事前・事後学修について後期は前期のリモートから対面授業に切り替わったこともあり、各教員は課題等を提示しているケースが多かった。しかしながら、事前・事後学修時間の確保はまだ十分でない状況であった。
	理由	対面授業に戻ったこともあり、直接学生へ予習復習の必要性の説明や事前調査、事後課題等の提示は実施しているが、必要性を感じていない、或いは、予習・復習をやらなくても授業に支障がないと考えている学生がいることが考えられる。また、コロナ禍で前期の実験実習を後期へ繰り越して実施したことも影響して、実験・実習のレポート課題が増えて、他の科目の予習・復習に時間が割けないことも原因とも考えられる。
②	課題	継続：専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）の履修者数が多い授業では、理解度が低い傾向にある。
	理由	コロナ禍のため、講義科目はスペースの広いメモリアルホール等を使用し、実験・実習科目は実験室を2つ使用するケースが増えた。講義科目でメモリアルホールを使用している授業では、後方から板書の字やスクリーンが見えにくいこと、実験・実習科目では、目が行き届かないこと等が原因で理解度がより低くなっている可能性が考えられる。また、学生同士が集まったの勉強会（ピアサポート）などを実施できなかったことも影響している可能性がある。
③	課題	入学初年度の基盤教育科目から専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）への接続に連続性がない。
	理由	現行カリキュラムの構造上、1年次は基盤教育が中心となっており、2年次以降に開講される専門基礎科目や専門科目（実験・実習も含む）間に乖離が生じているためと推察される。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	本課題は継続課題である。各教員はこれまでも毎年、宿題、小レポート、小テスト、グループワーク、練習問題等を提示し、事前・事後学修を促進する取り組みを行っている。本来ならば、それに加えて履修者同士の教え合い、学び合うことで主体的で能動的な学びを実現できるLTD（Learning Through Discussion）を取り入れるなどしていく必要があるが、コロナの影響で簡単ではない状況も伺える。とは言え、本取り組みは継続する必要があることから、一層事前・事後学修を促すよう9月の教員会議・教授会、学類会議を通じてお願いする。その一方、実験・実習科目については、本年度、前期は今のところ時間割通りに実施できていることから、昨年に比べ学生の負担は幾分軽減できる。なお、2年次に集中している実験・実習科目の各年次への変更については、新カリキュラム改編に盛り込んでおり、R4年度から改善が図られる見込みである。
②	本課題も継続課題なので、昨年前期に引き続き、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、LTD、ピアサポートの実施・活用を徹底させたいところではあるが、コロナ禍のため、容易ではない。このことから、学修支援システムの利用を拡大し、コメントカードやレポート、事前学修（簡単な演習）のオンライン化等々、授業での不明点に対する解説なども含めて履修者全員と情報の共有化を図り、学修の向上に努めるよう、9月の教員会議・教授会、学類会議を通じて依頼していく。
③	本課題については、1年次から専門基礎科目や専門科目（実験・実習も含む）を新カリキュラム改編に盛り込んでおり、R4年度から改善が図られる見込みである。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

授業実施の良い事例・改善例としては、「講義の内容に難解な部分もあったが、詳しく説明することや、難解だった部分を受講学生から吸い上げて、次回の講義で補足している」、「履修者全員のプレゼンテーションの実施など学生による発表は、自主学习を進め理解をより深めることにつながっている」、「講義資料の事前アップと講義録画のアップなど遠隔授業で試行した講義手法を対面授業下でも取り入れている」、「学生側が主体的・能動的に授業に参加できるように毎回ディスカッション課題について議論させた」、「実験操作などは、オンデマンドでビデオ配信して知識の定着を図っている」などであった。

2-②. 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

まずは、9月の教員会議・教授会、学類会議を通じて事例を紹介し共有化を図る。さらに、より良い授業の在り方について学群や学類のFD等を企画・実施し、グループ討議なども交えてボトムアップを図る予定である。